

6月28日市長定例記者会見

【司会】

それではただ今から市長定例記者会見を開催いたします  
先ほどご案内しました通り本日もライブで配信をしております  
本日の話題は2件になります。市長よろしくお願い致します。

【市長】

台風の被害は大したことがなくて良かったなというふうに安堵しておりますが、今日の記者会見は大変話題豊富でありますので、宜しくお願いを致します。すべてマニフェストの件ですね。3期目の現職で当選をさせていただいたということ、スピード感をキーワードにマニフェストを実行する、その起爆剤として100日プログラムを設定をしました。6月7日に市長ミーティング室の1回目を行って、そして6月23日に掘り起こしツアーを行って、それにまあ刺激も受けて残りの3つ、これを各局の職員が一生懸命準備をしてくれた事を大変私は心強く思っていて、今日は胸を張って発表したいなというふうに思っています。

それではまず一つ目ストリートピアノイン静岡始まりますであります、ずいぶんこれも1台目でありますので、話題性があるメディアの皆さんにも取り上げてもらってとても嬉しく思っておりますが、25日の議会で大石観光交流文化局からも、その趣旨は的確に答弁がありましたが私の口からもう一度、皆さんにお伝えをさせていただきたいと思っておりますが来月の14日の日曜にいよいよ始まります。

場所は清水の街の活性化の思いを込めて、清水駅前銀座商店街アンケート内に常設のピアノといたします。商店街の皆様にも温かなご協力をいただいていることを深く感謝を致します。商店街に設置をするのは静岡県内では初めての取り組みです。この街角ピアノに込めた私の思いと設置セレモニーの実施についてお伝えをします。先日2つのプログラムの発表をするときにマニフェストをもう一度記者の皆さんには配布をしましたが、そこでは街角に自由に弾けるピアノを設置します。まちは劇場さあ奏でましょうという風に呼び掛けました。これはまちは劇場というのも、大道芸だけではなくて、音楽や演劇やダンス、パフォーマーみんながそれぞれの自己表現の中で、街に賑わいをもたらしてくれることを願った新たな音楽版といえるもので、この事業を私はストリートピアノインしずおかと名付けました。ストリートピアノとは音楽を通じて人と人とのつながりを生み出すという目的で街中に設置された誰でも自由に弾けるピアノであります。先日はNHKのBS1でも世界の街角ピアノの紹介をする番組がありましたが、本当にあの街に潤いを与えるというような雰囲気画面からも伝わってきました。そこでこの清水でこれからどんなストーリーが生まれるのかなあと、なるべく自由度高くこのピアノを提供したいなというふうに思います。市民の皆さんがこのピアノにまつわるいろいろなストーリーをこれから作っていただくこと

の中で、いろんなその活性化のきっかけになってもらえればうれしいなというふうに思っています。

あの 100 日プログラムはそんなに予算を付けられる事業ではありません。私の選挙のためのマニフェストとして設定しておりますのでこのピアノのだって、じゃあ新品のピアノをメーカーさんから買おうということは不可能だったわけですね。静岡市内に隠れている。しかしまだあの十分に弾けることができるそのピアノを何とか確保しようということで四方八方なんとかこの職員が呼びかけをしてくれました。しかしその手間をかけた所にまたこれストーリーがあるんですね。玉川小学校の児童たちのピアノを今回この清水に移すというストーリーが生まれました。子どもたちが大事に使用していたピアノです。あの清水の街の活性化の為ならね、よしじゃあ協力をしようということになって、このピアノを再利用、新しくストーリーができるということでもあります。そのために動画を作ってきましたのでここでご覧をいただきたいなあと思います。

(ピアノ動画)

私も初めて見ましたけれども、最後はコスプレプレイヤーの皆さんも撮影に協力してくれたんですね。

とにかくいろんなハードソフトの仕組みの中で清水の活性化、とにかく作っていききたいなというふうに思っています。このピアノの管理見守りは商店街の皆さんが引き受けてくれました。早く商店街の一員としてこのピアノがなじんでほしいと願っております。14 日には設置セレモニーを実施します。セレモニーでは先ほどビデオにも出ていました、この清水商店街の栗田たけしさんがジャズピアニストとして活躍をされてるんですね。栗田さんがこれら落としの生演奏を披露してくれることになりました。今後は本当に老若男女、中高生や大学生のみなさんにもぜひ引いてもらいたいと思いますし、SNSなどでピアノを通じた交流の輪が生まれ、市内外の多くの方々に愛される 1 台のピアノになってくれればと願っておりますので清水駅前銀座商店街のピアノを是非一度弾いて聴いて楽しんでいただきたいと思います。ということでこれあの本当に報道が大事だと思っています。記者の皆さんのご協力なくしてはこの話題性が盛り上がっていかないと思います。ぜひぜひの取材をしていただきますようお願いを申し上げます。

二つ目はワクワク給食についてであります。これは7月12日からスタートを致します。このマニフェストは市民有志の方々に集まって、奇想天外ないろいろなあのアイデアを募りました。子育て中のお母さん方から出てきたのが、このワクワク給食のアイデアでありました。これが正式にマニフェストの一つになったわけでもありますけどもこの取り組みの目的は3つあります。

まず1つ目これが最も大きな目的であります、学校に行くことが楽しみになる、そんな魅力的な給食を提供したいということですが、皆さんの学校時代の思い出は何ですか。やっぱり給食が一番の楽しみだというようなね、子ども時代を過ごした記者もいらっしやるかも

しれない。とにかくやっぱり食べること、給食の時間というのはやっぱり私自身もとっても楽しみでありました。子どもたちが学校に行く楽しみっていろいろありますよね。勉強あるいはスポーツ、あるいは先生や友達と会う事、本当に様々だと思いますが最大公約数的に子どもの楽しみっていうのはやっぱり学校給食だと私は思います。今回のワクワク給食では普段保護者が負担している食材費に公費を上乗せし、滅多に使うこともできない食材を取り入れた特別な給食を子どもたちに提供するもので、この給食を月に1回でありますけれども楽しみに来て頂ければ嬉しいなと思いますし、またが現場の先生方にもね、献立に今日はワクワク給食ということだね、ぜひPRを子どもたちにしてもらいたいなという願いをしてあります。

目的の2つ目はこの給食を通じて地産材をたくさん使っておりますのでね、静岡市への愛着や誇りを育てていきたいと思います。やっぱり皆さんも小学校の給食、皆さんはいつ頃から、私は昭和の時代が義務教育でしょう、給食を食べたんですけども、例えばクジラの竜田揚げとかね、あるいはソフト麺だとかね、いろいろ思い出があるわけですね、印象的なね。もう本当に、あの給食というインパクト強かったと思います。そこで、1回目となる来月の献立の目玉は、静岡県産ウナギと静岡市産のお茶を使った煎茶の餡入りクリーム大福。これを食材として使います。2回目の9月以降は、例えばしずまえ鮮魚のシラスとか、あるいはツナのオリーブオイル漬けとか、静岡ブランドの食材をふんだんに使った献立を提供する予定であります。市の将来を背負う子どもたちが美味しく楽しい給食の思い出と一緒にお茶とかツナとか静岡の歴史や文化を、ガストロノミーという立場、食文化という立場でね、体験をして頂いて、それが静岡市の思い出になってもらえれば嬉しいなというふうに思います。世界に向かって静岡を自慢してほしいなと思っています。

そして目的の3つ目は地産地消です。これ大変難しかったのはロットを集めるということなんです。やっぱり5万食を一挙にどんと食材を準備しなければいけませんので地産地消の推進、さらには地域経済の循環、地域経済の活性化にもつながっていくと思います。このワクワク給食の特別献立を考えるのは、私はね、市民のアイデアでこれいいなあと考えてドンとマニフェストで設定をしましたけれども、これを受けて私の当選を受けて、よしそれ本当に実際にやろうとすると管理栄養士の皆さんとかね調理員の皆さんとか学校給食かの職員とか本当に頭を悩ませてくれました。本当は特別献立を考えるのは、実に難しいことなんです。いろんな制約がありますので。給食を作るためには、学校給食実施基準の栄養計算もしなきゃいけない、衛生管理の基準もある。例えば作って2時間以内に子どもたちに食べてもらわなければならない制約もある。あるいはセンター方式で大量調理しますのでね、その難しさもあります。そんな状況の中、子どもたちの楽しみのためにと知恵を出し合って素敵なワクワク給食の献立を考えてくれた現場の職員、調理員が皆さんに私は感謝をしたいと思いますし、よろしければそういう方々にまたね光を当てていただけるような取材をしていただきたいなというふうに思っています。私も一回目は話題作りに入って、7月12日に安東小学校に伺って子どもたちと一緒にこの給食を食べ、子供たちの表情、喜んで

くれているかどうかドキドキしますけれども、見ていきたいなというふうに思っています。

3つ目、これ当事者、コンシェルジュ諸君が考えてくれた、キャッチフレーズです。寄り添いファースト。昨年度、実験的に試行した取り組みを本格的に今年はやっというふうにと、マニフェストに掲げて本格実施に入っというふうとすることで、職員コンシェルジュが3つの庁舎で一斉スタートいたします。去年はこの葵区役所静岡庁舎だけで実証実験をしたわけですが、今回は3つの庁舎はすべてで一斉スタートいたします。いよいよ来週7月1日の月曜日から静岡庁舎、清水庁舎そして駿河区役所の3庁舎で一斉に職員コンシェルジュ制度がスタートします。これは去年も申し上げたことなのでもう皆さんご存知かなと思いますけれども、市民、不特定の市民が訪れる役所ですのでいろんなニーズがあっっているんな方々がいらっやいます。手続きの方法がわからないというお年寄りの方がいらっやるかもしれないし、何か介助が必要な方もいらっやると思いますし、また初めて市外から、こちらの静岡市のに訪れて役所に訪れる方もいらっやるでしょう。そういう方々に対して、積極的に職員の方から声がけをして、そして寄り添って要件を伺って、窓口案内をすると、帝国ホテルに負けないよと僕がはっぱをかけております。あのそのくらいの気持ちを持っていわゆるお役所仕事とかね、たらい回しという言葉で静岡市役所では死語にしてほしいと、そんな市長の気持ちを体現してもらえればうれしいなというふうにも思っています。実際昨年度、市民の皆さんから実証実験に対するアンケートをしたところコンシェルジュに話しかけてもらってとても安心するし、助かったという声を多くいただきました。また職員の方の意識改革、やはり最初はドキドキしたけども、声をかけてみるといろんな気づきがあっったというまっ人材育成にもある意味効果があっったのかなというふうにも思っています。私は市民の方へのおもてなしはもちろんなこと今年度、寄り添いファーストを合言葉に来庁者ひとりひとりに合っった寄り添い方を、職員自ら考え行動する職員の対応能力のスキルアップも期待したいと考えております。市民目線の気配りがどれだけできるか、まさにその実践の場でもあるということでもあります。さてここに至るまではやはりそういうマインドを作らなきやいけないので研修も重ねました。そして先ほどその研修を終えたサーティフィケートとしてコンシェルジュ専用のゴールドのバッヂも市長室で贈呈をさせていただきました。2期生のみなさんに贈呈をさせていただきました。せっかくであるならばね、市長が一人で皆さんにこの事を発表するだけでなく、2期生の職員たちに来てもらったほうがリアルに記者のみなさんにその思いが伝わるんじゃないかなと思って、それぞれ現場があるんですけども、今日ここに集合をしてもらいましたので、早くコンシェルジュとしてフロアに立ちたいという思いと、当事者意識とやる気に満ちた二期生を紹介をしたいと思っますので広報課長お願いいたします。

【司会】

(拍手)

はい。職員コンシェルジュの2期生になります。

一同、礼。

それではさっそくコンシェルジュの方から意気込みをお願いしたいと思います。

#### 【コンシェルジュ1】

清水庁舎代表、学校給食課の勝俣です。

市役所を訪れるすべての方を明るい笑顔でおもてなしします。

#### 【コンシェルジュ2】

駿河区役所代表、保険年金課の浦田です。

一人でも多くの方に満足して頂けるよう精一杯取り組みます。

#### 【コンシェルジュ3】

静岡庁舎代表、障害福祉企画課の成岡です。

自分らしさを活かしたオンリーワンのコンシェルジュになります。

#### 【コンシェルジュ全員】

私たちは寄り添いファーストを合言葉に、心温まるおもてなしでお迎えます。

#### 【司会】

一同、礼。

コンシェルジュのみなさんありがとうございました。どうぞご退場お願いいたします。

#### 【市長】

いかがでしたでしょうか。

随分ね、これだけの記者さんの前に出る、後ろにテレビカメラもあるし緊張するんですよ。

でもすごくやる気を感じられましたよね。ぜひこれも一人一人のコンシェルジュに、ぜひ光を当てて取材をしていただきたいなというふうに思います。私自身さっきも申し上げましたけれども、本人たちの修行になると思うんですね。公務員、役員ていうのはどうしても、税金をもらって仕事をしているので、それが当たり前になってしまう。しかしそれはこういう方々が、ちゃんと納めてくれて、私たちは生活できているんだと。それで、こういう人たちには色んな人がいるわけですよ。それはとてもこうやってわたしたちが春風のように温かくおもてなしをすれば、それに春風のように答えてくれて、さっきの感想のようによかったよという、いい感じの関係ができる場合もあれば、彼らが春風でおもてなしをしても、冷たく色々厳しい言葉を浴びせる、そういう市民の方もいらっしゃると思うんですね。でもそういう市民の皆さんも、おそらくやっぱり税金を納めているんだ。という意識はあるでし

ようし、またそういう厳しい声があるというのも、一つ世の中というものなわけですね。民間企業の皆さんは、その辺りの感覚、特に営業をすればご存知だと思いますね。そんな感覚というものを、こういう経験で少しずつ、場数を踏んでもらって、また胆力もつけてもらって、そしてたくましくね、そしてまたおもてなしをできる、というマインドを持った職員に育ってもらえれば、とても嬉しいなというふうに思っています。

さて、それでは3つの100日プログラムの紹介が終わりましたので、最後のラジオに行きたいと思います。これもマニフェストなんですね。今日マニフェストを持っている方がいらっしゃるかもしれませんが、最優先の5大構想と、次に100日プログラムと、そして最後に4年間かけてやるっていう、20の約束。これを掲げているんですけども、20の約束の17番目に私、公約したのがこの緊急情報防災ラジオというやつですね。ここにマニフェスト本体がありますけれども、この約束17。緊急を自動でお知らせする防災ラジオを安価提供します。いつ起こるか分からない地震災害や風水災害。いざという時のために、備えが必要です。コミュニティFM局と連携して、地震津波気象情報などの緊急情報に対する緊急情報防災ラジオを導入し、安価で販売します。という公約だったわけですが、それを見事にスピード感をもって答えてくれました。

前回平成27年に、2万台販売したんですね。とても好評だったんですよ。だけどその噂をきいて、購入をしたいと。しかし台数がないという方からは、次はいつの販売ですか、という期待の声も数多くもっていました。そこで今回マニフェストに追加販売をしよう、ということで掲げたわけでありまして。今回の販売価格は1台2,000円であります。1万台であります。ただ、これリズム時計工業という、時計については大変実績のあるメーカーに、開発をしてもらったわけなんですけれども、5,000円弱の価格がかかっています。だから約3,000円は静岡市が助成をして、2,000円で販売するという、仕組みであります。かなりスペックも高いものであります。購入の申し込みは7月の29日から先着順。各区役所や危機管理課にて、持参または郵送で受け付ける予定です。スペックの高さは折り紙つきで、前回のラジオよりも、また進歩をしているんですね。全国の警報システム。いわゆるJアラートで配信する緊急地震速報、津波警報、気象警報などの緊急情報。さらには静岡市が発表する避難勧告などを、自動的に最大の音量でお知らせします。だから、びっくりするぐらい、「だーん」とうるさいくらいであります。こんなJアラートや静岡市が発信する情報は、コミュニティFMラジオ放送局である、FMHiとかマリソルでもこういう協力いただき放送されます。他の放送局を聞いている時でも、自動的に割り込んで、この放送が流れるという仕組みになっています。これも実演をしていきたいとおもいます。

リアルに感じてもらうために今ここにありますが、ここにラジオがありますので、今から緊急情報の信号流して、どのように聞こえるかやってみたいと思いますので、よろしくお願い致します。

割と大きな音ですのでびっくりしないでおいってください。はい。

**【緊急防災ラジオ】**

こちらは広報静岡です。大雨警報が静岡市南部発表されました。

**【司会】**

以上だそうです。

**【市長】**

ありがとうございます。これは屋外に設置してある、同報無線と同じ内容なんですけども、その同報無線が聞こえづらいっていうことを、よく市民の方々に言われるんですね。確かに家の位置によっては、同報無線が遠くて聞こえづらかったり、あるいは雨戸を閉めてしまっていて聞こえなかったり、あるいは聞こえたとしても、どうしてもその広域放送なものだから、ワンワンしちゃうんですね。残響が残っちゃうものだから、一つ一つの言葉が聞こえづらくなってしまいうんですね。そういう欠点が従来の同報無線にはありましたので、これを家の中でクリアな音質で聞けることでも役に立てるのではないかなというふうに思っております。大きな災害が発生した場合にはいち早く市民の皆さんが正確な情報を知り、適切に行動を移せるかがとても重要になります。これはそうなんです。とにかく情報がほしいと。停電をしたり、勧告が出たりという時に情報を欲しいっていうことに、このラジオはとても役に立つと思います。ぜひ多くの皆さん、自分のところは聞きづらいというニーズがありましたら、自らの身を守ることに役立つためにも、このご購入を検討していただきたいとお願いをいたします。以上であります。

**【司会】**

はい、それではただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いしたいと思います。ご質問の際は、社名とお名前をおっしゃってからお願いしたいと思います。いかがでしょうか。SBSさんどうぞ。

**【SBS】**

いくつかあるんですけど、まずピアノの事なんです、これ玉川小からはピアノがなくなっちゃうんでしょうかというのが一つ質問です。

**【市長】**

そうなんです。2台あるんだ。局長お願いします。

**【観光交流文化局長】**

こちらは市民の方が玉川小に寄付して頂いたピアノで、予備として使っていたものを今回いただけるということになっています。

【市長】

そうです。予備をいただいたということでもあります。

【SBS】

ありがとうございます。もう 1 個、防災ラジオも質問なんですけども、あの伝える情報の中の⑥が東海地震注意情報予知情報になってしまっているんですが、南海トラフの臨時情報には対応をしているのでしょうか。

【危機管理統括監】

同じく対応しております。

【SBS】

これ、もはや東海地震の情報はないので、書き変えた方がいいんじゃないかな、案内を。と思うんですが。

【市長】

どこ？

【司会】

資料ですね。

【SBS】

資料⑥東海地震注意情報予知情報になっているんですが。

【市長】

あー、そうか。この前変わったもんね。はい。

【SBS】

あと1点。AMラジオからもはやワイドFMの時代だと思んですが。

【市長】

それはSBS詳しいよな。

【危機管理統括監】

東海地震に関しては、法律的なものはまだ残っている部分というのはありますので、そこらへんのと

ころ、これにプラスαという形でまた掲載をさせていただくという。それとも1つ、FMに関していきますと、エリアがあまりに広いとですね、静岡市の情報が他のところにも流れてしまうという形になりますので、やはりコミュニティFMというバンドをですね、今後も使用していくというのが今のところベストじゃないのかなと考えております。

**【SBS】**

ワイドFMには対応しないんですね。

**【危機管理統括監】**

今のところ予定はございません。

**【市長】**

ワイドFMを押ししてくんだよね。

**【SBS】**

全国的にどちらかというとAMがなくなっていく方向にある時代なのだと思います。

**【司会】**

はい、いかがでしょうか。NHKさんどうぞ。

**【NHK】**

NHKです。防災ラジオの件で重ねてなんですけど、マニフェストに書かれているということだったんですけども、平成27年にこれ2万台配布されて、また新たについてということなんですけど、やはりこの災害がいろいろ変化している中で、この防災ラジオの必要性というのが改めて必要だと感じたからということによろしいのでしょうか。

**【市長】**

もちろんです。やっぱり市民からのニーズ、ずいぶん感じてましたのでね、今回追加販売に至ったと。その間に改選があったのでね、ここの中に期待もあったものですから、書かせていただきました。

**【司会】**

いかがでしょうか。よろしいですか。それでは幹事社質問に移りたいと思いますので、幹事社さんお願いいたします。

**【中日新聞】**

中日新聞です。幹事社質問にまいります。1 問目が、工事を巡って県とJR東海との議論が平行線

になったままで、最近では愛知県知事なり三重県知事なりがくぎを刺すような発言をされたりとか、あとは国交省が調整に動きますというようなことを言ったりと、まあ事態が大きくなっていると思うんですけど、静岡市として、市長として、この現状をどう見ているのか。まあこのままだと、完成の時期もずれ込む可能性も高くなっているんですけど、そこら辺も踏まえて話していただくと助かります。

2 問目が市の職員が働きすぎだったり、部下からのパワハラなどが原因でうつ病になって自殺した事案で公務災害になった、認定されたのがつい先日あったと思うんですけど、こういった事態を防ぐためにはどういった対策を講じているのか。市の広報課の方が毎晩遅くまで働いている姿を見て、ちょっと働きすぎなのかなというところもあるので、まあそこらへんを教えてください。

#### 【市長】

はい、2つ質問をいただきました。記者も働いてると思うけどな。

まず1つめ、リニアの件なんですけど、これは島田市長をはじめ流域市町の首長とも話をしますし、また利水団体の皆さんの気持ちも考えてね、水環境問題というのは重要な私たちにとっても関心事でありますので、その不安を払拭するというような方向性の中で、引き続きね、県とJR東海さん対話を続けて合意点を見いだしてほしいなというふうに願っています。以上です。

2つ目、2つ目は少し、まずもって改めて、亡くなられた職員ご冥福をお祈りしますとともに、ご遺族の方々に対してはお悔やみを申し上げたいと、市長として改めて申し上げておきたいと思えます。で、今回の公務災害認定通知書では、時間外の勤務や人間関係・職場環境などを総合的に判断して、公務上の災害と認定しています。このような災害を発生させないためには、まずは働き方や休み方の改善、おっしゃるとおりであります。2つ目は職員の健康支援、3つ目は働きやすい環境整備、そして4つ目は働きがいの向上に向けた全庁的な取り組み。以下の4つが必要だというふうに考えております。また、今後の対策もきちっと総務局内で議論を重ねておりますので、総務局長から補足をしてもらいたいと思えます

#### 【総務局長】

はい、総務局長でございます。今の市長のコメントに付け加えまして、これまでも職員のワークライフバランス、この実現のために、今、記者さんおっしゃられたように時間外勤務の縮減とか休暇取得の促進、こういったことを講じておりました。またメンタルヘルスとか健康管理、こうした研修も行ってきましたが、また機会のあるごとに、ハラスメントに関する注意喚起とか、管理職係長級の職員に対する研修も行ってきたところです。国によって法制化の動きもございましたので、先月の局次長を中心にした局次長会議というところで、ハラスメントの防止や、改善への対応についてあらためて周知をしました。今後ですが、全職員を対象としたハラスメント防止に関する教育の方も実施していきたいと思っております。以上でございます。

#### 【司会】

幹事社さんよろしいですか。はいありがとうございました。

それでは、お時間の方も、ちょっと残り少なくなってまいりましたが、各社さんからご質問がありましたら、お受けしたいと思います。はい、静岡朝日テレビさん。

**【静岡朝日テレビ】**

リニアの工事に関連してもう一問、お伺いします。

最近、川勝知事がですね、リニアの工事に伴って地域振興ということをJRに求める発言を繰り返すようになりました。地域振興というと、去年、静岡市さんはJRと市北部の県道のトンネル建設ですね、これをJRさんが負担して行うという合意をされていると思います。田辺市長は、川勝知事と足並みをそろえてJRに改めて地域振興を求めていく、そういう考えはあるのでしょうか。

**【市長】**

これは、市が、第一義的な当事者じゃないのでね、やはりあくまでも県と、あるいは利水団体の 10 市町と対話をする中で、解決していただきたいなというふうに思っています。

**【静岡朝日テレビ】**

川勝知事は、「静岡県に資するような地域振興」という言葉を使っていますけれども、そういう地域振興の必要性については、市長はどのように考えますか。

**【市長】**

私が昨年というか、もう3年くらい前からJR東海さんと交渉を始めた基本的な姿勢は、やっぱり、お互い相手の立場を尊重しながら、なんとか合意点を見い出そうということでありました。そういう中で、私たちは南アルプスエコパークに対する責任を持っていますので、そこのところを主張させてもらいました。そして、当然、地域振興について地元の方々から、トンネルをね、実際に掘らざるを得ない、そういう井川の皆さんからの要望というものも背負ってましたので、そういうことも率直に申し上げました。その中でJR東海の金子社長さんがね、僕も 2027 年の開業というものを国鉄技術士の時代から 50 年間ずっとずっと開発を続けた、そういうレガシーというものを本当に重いレガシーを背負っていた金子社長の立場を思いやったし、また、金子社長も今年がね、安倍六村、今、井川村と旧静岡市の合併 50 年の記念すべき年で、ずっと悲願だったわけですね、地元の住民の皆さんのね。こういう私たち静岡市の立場も尊重してくれましたし、そういう中でJR東海さんからそういう申し出をいただいたと言うところで、ここが一つの合意の点だなということをお互いの立場を尊重しながら見つけたということになります。

こういうことって 10 対 0 の解決方法はないと思うんですね。お互い譲り合うという姿勢が大事だということ、私は大事にして交渉をしてきたつもりです。

**【静岡朝日テレビ】**

わかりました。ありがとうございます。

【司会】

他にいかがでしょうか。はい、NHKさん。

【NHK】

今の質問に重ねてなんですけれども、やはり知事とJR側というのは、お互いに尊重し合いながら交渉を進めてほしいという思いがあるのでしょうか。

【市長】

おっしゃるとおりですね。論点というのはね、出ているわけですから、とにかくこれから、なるべく早く合意点を見つけてほしいと願っております。

【司会】

読売新聞さん、どうですか。

【読売新聞】

またリニア関連で質問なんですけれども、知事が昨日ですね、井川地区への道路や林道の整備を急ぐように求める発言を一般質問後の囲み取材で、されたんですけれども、市としては今後どのように対応されていくのでしょうか。

【市長】

そのことは、私まだ承知をしていません。なんとおっしゃったんですか、知事、囲み取材で。

【司会】

マイクをお願いします。

【読売新聞】

井川地区への道路、林道の整備を急ぐようにというふうに求めたそうなんですけれども。

【市長】

市のね、林道東俣線のことについてはね、ワーキングを持ってこれから、これまでJR東海さんと話し合いを続けてきましたのでね、それに関連する発言なのかなというふうに思いますけれども。副市長、何か聞いている？

【司会】

ございますか、お願いします。

**【赤堀政策官】**

林道東俣線に関してはですね、その改良工事に関して、今、静岡市とJR東海とですね、協議を進めている最中でございます。それは事実ということではございますが、知事の発言がどのような趣旨のものかというところは、ちょっと伺い知ることはできません。以上です。

**【司会】**

はい、いかがでしょうか、よろしいですか。

はい、最後にどうぞ、SDT(静岡第一テレビ)さん、お願いします。

**【静岡第一テレビ】**

昨日の県議会で、静岡市清水区の救急医療体制について、ちょっと指摘が出たんですけど、清水区の2次医療の指定されている病院に、清水区民の患者の方が行ったところ、旧静岡市側の病院に回されることがあるという指摘があったんですけど、これについて、そういった実態について、市長はどのように思われているのかと、市長も、その実態について、県は静岡市にそんなことを報告していたみたいなんですけど、市長ご自身が知られていたかどうか、お願いします。

**【市長】**

もちろん私も、清水区の緊急医療体制が非常に厳しい状態であるというのは認識をしておりまして。ご存じのとおり、医師が不足しているということ、どう確保していくかということで、公的な病院には、そのための財政的な支援も市から拠出してますしね。その下支えをしてきたつもりであります。ただ実態はそうなっているということです。

住民の方にとっては、とにかく市も県もないんですね、とにかく行政が一体となって、そして、どう医療体制を整えるかということですのでね、これも本当に連携をしてね、やっていく必要があるかなというふうに思っています。

**【静岡第一テレビ】**

ありがとうございます。また一点、静岡市側に直すように言ったら断られたみたいなご発言もあったんですけど、それに関しては何か聞いてますでしょうか。

**【市長】**

静岡市が協議会を、病院長の皆さんとね、いろいろ議論をしようということで始まった協議会なんですけれども、今回の問題意識は、その前に病院長、僕もそうですけども、トップですのでね、そういう包括的な話よりも、もっと実務的なレベルでね、きちっと県市連携をして積み上げた方がいいんじゃないかというふうに提案をさせて頂いて、拒絶をしたっていうのはちょっと激しい言葉じゃないか

なと思いました。

これもね、本当にやわらかく、やわらかく連携をしあって、やっぱりお互いの立場を尊重して、一緒になって、やっぱり住民の命を守っていかなきゃいけないんだろうというふうに思っています。

**【静岡第一テレビ】**

ありがとうございます。

**【司会】**

はい、ありがとうございました。本日、会場にはですね、行政のほう、各課、詰めておりますので、また不足な点がございましたら、取材のほう、お願いしたいと思います。

以上で本日の定例記者会見、終了させていただきます。

次回は、7月12日、金曜日の午前11時からとなります。よろしくお願いたします。

本日はありがとうございました。